

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 64号

2013/09/2 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：大きな方向感はなく狭いレンジ内での動き、週後半はやや弱含んだ。

①週最高：12月LDN市場£1,655 / 12月NY市場\$2,498 (8/28) 先週比 **LDN-£5/NY-22**
②週最低：12月LDN市場£1,628 / 9月NY市場\$2,436 (8/27、8/30) 先週比 **LDN+£5/NY-14**
週内価格差額 (①-②)：LDN市場£27 (傾向→) / NY市場\$62 (傾向→)
週内建玉推移：LDN市場 219,361枚(8/23終了時)⇒ 225,316枚 (8/29終了時) **+5,955枚**
NY市場 185,474枚(8/23終了時)⇒ 188,806枚 (8/29終了時) **+3,332枚**

【8月26日(月)】NY、小幅続伸

主要産地国のコートジボワールで、先週の降雨量が十分でなかったことから、収穫に遅れが出るとの懸念が台頭し、小幅続伸した。ニューヨーク市場の12月きりは16ドル(0.6%)高の2481ドルで終了。

米国のあるディーラーは「現時点では、先週に下落した後を受けた調整の反発のように思える。投機筋が継続的にロングを積み増している」と指摘した。ロンドン市場はバンクホリデーのため休場。

【8月27日(火)】いずれも下落

ニューヨーク市場の12月きりは反落、28ドル(1.1%)安の2453ドルで終了し、先週付けた8カ月半ぶり高値の2547ドルを下回った。同限月は先週付けた高値から下落後は、レンジ内での取引となっている。ロンドン市場の12月きりは下落し、8ポンド(0.5%)安の**1628ポンド**で引けた。これは、先週付けた11カ月ぶり高値の1673ポンドをやや下回る水準。

【8月28日(水)】

西アフリカの天候が注目される中、投機筋の買いに急伸した。ニューヨーク市場の12月きりは45ドル高の**2498ドル**で引けた。先週に9カ月ぶりの高値を付けた後の値固めが続いている。ロンドン市場の12月きりは27ポンド高の**1655ポンド**で終了。先週に付けた11カ月ぶりの高値に近づいた。あるブローカーは「一部投機筋のプログラム買いが入っている」と語った。相場は西アフリカの天候懸念に支えられている。ここ数カ月間、季節外れの乾燥が続き、生産を圧迫するとみられている。

【8月29日(木)】いずれも反落

両市場とも反落。商品全体の下げに押されたほか、ドル高も圧迫要因だった。

ニューヨーク市場の12月きりは19ドル(0.8%)安の2479ドルで終了。ロンドン市場の12月きりは8ポンド安の1647ポンドで取引を終えた。市場ではコートジボワールの天候が引き続き材料視されている。エコバンクは「この1カ月、天候が(作物の生育にとって)良くなかったことから、メインクロップの開始時期が遅れるとの懸念が広がっている」と指摘した。

【8月30日(金)】。両市場とも続落

ニューヨーク市場の12月きりは手じまい売りが出たことなどから続落し、43ドル(1.7%)安の**2436ドル**で終了。一時、2.9%下落し、3週間ぶり安値となる2406ドルに値下がりする場面が見られた。

あるベテランのディーラーは「カカオ豆主要産地国のコートジボワールでは雨となることが予想され、週末を前にした利食い売りも見られる」と話した。ロンドン市場の12月きりも続落し、13ポンド(0.8%)安の1634ポンドで取引を終えた。

用語解説：

ロングとショートについて：

ロングは、「ロングポジション」の略で、買い持ちのポジションのことをいう。すなわち、運用において、買いのポジションを取っている状態であり、また「買い持ち高」が「売り持ち高」を上回っている状態である。ロングは、マーケット(市場)用語で、特に外国為替取引や先物取引などでよく使われる。

ロングは、一般的には「将来的に値上がりする(上昇する)」と判断した投資対象を買って、値上がりした時点で売って決済する投資手法であり、決済した時の差額が損益(プラスの時は収益、マイナスの時は損失)となる。

ショートは、「ショートポジション」の略で、売り持ちのポジションのことをいう。すなわち、運用において、売りのポジションを取っている状態であり、また「売り持ち高」が「買い持ち高」を上回っている状態である。

ショートは、一般的には「将来的に値下がりする(下落する)」と判断した投資対象を売って、値下がりした時点で買って決済する投資手法であり、決済した時の差額が損益(プラスの時は収益、マイナスの時は損失)となる。

2、12~13年度の世界カカオ豆市場、5万2000トンの供給不足に=ICCO(8/31)

国際ココア機関(ICCO)は30日、今年度(2012年10月~13年9月)の世界カカオ豆市場を5万2000トンの供給不足とし、従来予想(6万トンの供給不足)から引き下げた。11~12年度は8万7000トンの供給過剰だった。

また、今年度の世界カカオ豆生産予想は398万6000トンと、従来予想(396万7000トン)から小幅上方修正した。前年比では2.4%減少する見込み。世界のカカオ豆圧砕量予想は399万8

000トンと、同(398万7000トン)から上方修正した。前年比では1.1%増加する見込み。

3、コートジボワールのカカオ豆産地、降雨不足で収穫に影響(8/27)

コートジボワールの農家らが26日明らかにしたところによると、同国カカオ豆主産地では、先週の雨不足で、2013～14年度のメインクロープ期の収穫に影響が及んでいる。産地では数週間、乾燥や低温などに見舞われたため、メインクロープの収穫は少なくとも1カ月遅れる可能性が出ている。

コートジボワールでは、10月1日にメインクロープの販売シーズンが始まる。農家らによると、天候の影響で病害拡大の懸念も出ているという。ソブレ郊外の農家は「9月中旬から収穫に入るところもある。ただ、収穫量は10月後半まで非常に少ないだろう」と説明。さらに「現在必要なのは、適度な雨と十分な日照だ」と語った。

4、ガーナ・ライトクロープ期のカカオ豆生産予想、15万トンに上方修正(8/28)

ガーナのカカオ豆監督機関であるココア委員会(Cocobod)のフォフィエ会長は27日、ロイター通信に対し、「今年のライトクロープ(2013年7～9月期)は豊作となる見込みだ。生産は最低でも15万トン程度、もしくはそれ以上になるだろう」との見方を示した。8月8日時点の予想(9万トン)から大幅に引き上げとなる。3～4月の予想外の降雨がカカオ豆生育に寄与したという。

ただし、メインクロープ(13年10月～14年6月)の生産についてフィフィエ会長は「この時機にしては雨が降っていない。次の収穫が少し心配だ。これ以上降雨が遅れば厳しい天候条件になり、メインクロープの生産には好ましくない」との懸念を表明した。

ガーナは世界2位のカカオ豆生産国。生産サイクルはメインクロープ期とライトクロープ期の2期に分かれ、ライトクロープの生産量は少ない。また、ライトクロープの豆は、国内圧砕業者助成を目的に割引価格で提供されているが、近年では割引率が20%から8%に縮小され、この制度の廃止について検討を始めているという。

5、コートジボワールのカカオ輸出業者、新シーズンのコスト提案に反対(8/31)

コートジボワールのカカオ輸出業者はカカオ監督庁から提案された2013/2014シーズンの価格構造に対して、(提案された価格)が輸出業者のコストを低く見積り過ぎであるとし、政府に対して仲裁を要望したと業界筋からの情報で判明した。

現在、輸出業者とコートジボワールのカカオ監督庁との意見が対立している背景には、大統領のAlassane Ouattara氏がカカオ生産者の最低価格を保証する努力をすると約束し、業界の構造自体を再編していることに起因している。

コートジボワールの主要なカカオ輸出業者であるカーギル、ADM、OLAM、Armajaro等の輸出業者は国内の輸送コストと税金のコストを考慮し、昨年対比でキロ当たり27CFAフランの値上げを要求している。

『私達は来シーズンに向けて27CFAフランの値上げを要望している。なぜなら昨シーズンは我々輸出業者のコストがあまりにも低く見積られ過ぎていたからだ。』アビジャンに拠点を構える国際的なカカオ輸出業者のトップは言う。『私達は2013/2014シーズンを現実的に活動する為に、費用の調整を要望しています』

コーヒー&カカオ委員会(CCC)は2012年10月から2013年3月までのメインクロープの農家出荷価

格をキロ当たり 725CFA フラン(\$1.46)とし、4月から9月までのミッドクロップの価格を 700CFA フランにて設定した。2013/2014 シーズンの農家出荷価格はまだ決定していない。

コートジでは、農家出荷価格を決定する為に、国際市場価格をベースにして、輸出業者が必要な見積もりコストを採用し、それを国際価格から差し引く算出方式を採用している。その為、農家出荷価格は輸出者にとっては彼らの利益を決定する大きな要素となっており、政府の構造改革により多くの輸出業者が事業を圧迫されていると主張している。

いくつかの農家と買付け業者は、ある輸出業者はシーズンの終わりが迫っており、需要も弱くなりつつある現状 CCC の設定した農家出荷価格より低い価格で買付けを行っているという。いくつかの農家は 500~600FCA フランの間の価格を承諾している。

『農家を除いてコートジのカカオ産業関係者の状況は悪くなってきている。多くの企業は多くのリスクに耐えながら、一方でほとんど報酬は少ない状況だ』欧州系のトレーダーは語った。

関連ニュース) T P P、10月大筋合意へ交渉加速=首席交渉官会合、来月も米で(8/31)

日本、米国など12カ国が参加した環太平洋連携協定(TPP)交渉会合は30日、関税を扱う市場アクセスなどでの一定の前進を強調する共同声明をまとめ、閉幕した。インドネシア・バリ島でのアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議に合わせて10月に開くTPP首脳会合での大筋合意を目指し、各国は交渉を加速させることを確認。今後、分野別に中間会合を開くとともに、9月18~21日に首席交渉官会合を米ワシントンで開催する方向となった。

鶴岡公二TPP首席交渉官は会合後の記者会見で、最大の焦点である関税協議で、10年以内の撤廃を約束する品目が全貿易品目に占める比率(自由化率)を低めに抑えた日本の交渉案について「まだまだ改善の余地があると(各国に)受け止められた」と指摘。「相手国の要望に応じて自由化率を上げていく」と述べ、例外品目を絞り込み、自由化率を今回提案したとみられる80%前後から90%台に向けて段階的に引き上げることを示唆した。

日本は今回、ペルーとチリを除いた9カ国と関税分野で2国間協議を実施した。米国やオーストラリアなどを除く6カ国とは、関税撤廃の用意がある品目のリストを交換。日本はこのリストで、コメや砂糖など重要5項目の扱いを「未定」としていた。共同声明は、知的財産権や国有企業など協議が難航する分野を念頭に「創造的で現実的な解決策を見いだすことに成功した」と成果を強調した。しかし、これらの分野は先進国と新興国間の立場が対立。今回は課題の整理にとどまり、合意には程遠い。関税分野なども含め、利害が異なる各国による水面下の激しい折衝が9月の首席交渉官会合まで続くのは確実だ

***特徴的なチョコレート**を毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp